



信州渡来人倶楽部 上映会&講演

明日、
世界が滅びるとしても、
今日、
二人は木を植える。

道—白磁の人—

吉沢悠 ペ・スピン 高橋伴明 監督作品

酒井若菜 石垣佑磨 堀谷瞬 黒川智花 近野成美 チョン・ダス チョン・スジ
市川亀治郎/堀部圭亮 田中要次 大杉漣 手塚理美
脚本：林民夫 原作：江宮隆之「白磁の人」(河出文庫)
音楽：安川午朗 エンディング曲：ハクエイ・キム「道—白磁の人—」(ユニバーサル ミュージック)
撮影：ナ・ヒョク 照明：チャ・サンギョン 美術：パク・ジュン 録音：チョン・イノ 編集：キム・ヒョンジュ
ミキサー：ホン・イェウォン 衣裳デザイン：クォン・ユジン 衣裳着付け担当：大塚真 ヘアメイク：杉村千春 チョ・ナヒ
スタリブロー：村松愛香 VFXスーパーバイザー：ベク・サンファン 助監督：神保英昭 キャスティング：山口正志 安生麻子
製作総指揮：長坂結司ゼネラル・プロデューサー：奥田尚志 倉内均 プロデューサー：紀伊宗之 小川勝広
アシスタントプロデューサー：若林謙介 クラインプロデューサー：約瑟明日務 宣伝プロデューサー：吉村知己
製作：小沢「白磁の人」映画製作委員会/「道—白磁の人—」フィルムパートナーズ 制作：アマゾン・ラタナ 制作協力：CJ POWERCAST
後援：外務省、駐日韓国大使館、韓国文化院、日韓親善協会中央会、在日大韓民国民団中央本部
特別協力：ソウル国際親善協会、浅川巧顕彰会、浅川啓教、巧兄弟を想ふ会、日本民衆館、高麗美術館
助成：文化芸術振興費補助金、韓国映画振興委員会 助成自治体：山梨県、北杜市
宣伝：コアテ 配給：ティ・ジョイ 35mm/カラー/119分/ビスタサイズ/ドルビーSRD/©2012「道—白磁の人—」フィルムパートナーズ
<http://hakujinohito.com>

今、わたしたちは、浅川巧の歩いた道の、その先を歩いているだろうか。

講演「今、なぜ白磁の人—浅川巧なのか」

(いちゆの)
信州渡来人倶楽部代表 **李 春浩**



2020年3月28日(土) 13:30~16:30 (13:00開場) 資料代 500円 〈中学生以下無料〉
松本市中央公民館(Mウイング) 6階ホール
松本駅 徒歩 5 分 定員360名

浅川巧の歩いた道を辿る、二時間の旅。

吉沢悠とペ・スピン

本作で吉沢悠が演じる浅川巧(1891-1931 山梨県北杜市出身)は、日韓双方の教科書に載る実在の日本人。民芸運動の父・柳宗悦に多大なる影響を与え、哲学者の安倍能成は彼の死を「人類の損失」と記した。浅川巧は、偏見や驕りに囚われずに朝鮮人と親交を結んだ稀有な人物であり、その墓は現在、ソウル郊外の共同墓地で彼の地の人々によって守られている。また、自然を友とし、私利私欲とは無縁に生きた彼の言葉は、没後80年になる今を生きる私たちの心にも、深く響く。——友であり指導者である雀よ、鶏よ、向日葵よ、松林よ、大地よ、蒼空よ、今日も日中暑いだろう。健闘を祈る——浅川巧の歩んだ「道」は、自然や隣国との共存の仕方を見失いつつある21世紀の日本への、時を越えたメッセージとなるであろう。

民族の壁を越え、 時代の壁を越えて 生きた、 男と男の物語、 ここに誕生！

日韓の歴史に秘められた、 情熱と感動の ヒューマンストーリー！

日本が韓国を併合してから4年後の1914年、ひとりの日本人が京城(日本統治時代のソウル)にやって来た。名は浅川巧、23歳。林業技師として朝鮮の山々を緑に戻す使命を抱いた青年だ。日本人の多くが朝鮮人を蔑視し、日本の風習や価値基準を押し付ける中、彼は朝鮮語を学び、白磁に代表される朝鮮の文化や工芸品の素晴らしさを見出して行った。そして彼の朝鮮語の先生でもある職場の同僚、イ・チョンリムと共に山を歩き、語り合い、多くの山々を緑に戻し、民族の壁を越えた友情を築いて行く。しかしある事件がきっかけとなり、チョンリムは抗日運動の罪で投獄されてしまう。いま、時代がこの二人の美しい魂を引き裂こうとしていた…。『火火』『禅 ZEN』の高橋伴明監督が混迷の2012年におくる感動作。観た人の心を涙で洗う、史実に基づくヒューマンストーリーがここに誕生！

吉沢悠とペ・スピン。 本作のテーマを体現する 二人の友情。

人間的な魅力に満ちた浅川巧を演じるのは、ドラマ「JIN-仁」や映画「夕陽の街 桜の国」「孤高のメス」など、誠実な演技で存在感を発揮する実力派、吉沢悠。巧と民族の壁を越えて友情を育むイ・チョンリム役には、ドラマ「朱蒙 チュモン」「華麗なる遺産」「トンイ」などで人気爆発中のペ・スピン。そのほか、石垣佑磨、塩谷瞬といった若手実力俳優、そして、市川亀治郎、酒井若菜、田中要次、堀部圭亮、大杉漣、手塚理美らの強力俳優陣が当時の日本人のさまざまな姿を鮮やかに描き出す。「主役の二人が親友になったことが、この映画の最大の成果。それこそが浅川巧さんが望んだことでしょ。」と高橋伴明監督が語る通り、主演の吉沢悠とペ・スピンは撮影を通してかけがえのない親友となり、まさに本作のテーマを体現した。また、本作は日韓混成スタッフで約一ヶ月半に亘り韓国ロケを行い、2011年夏の記録的な豪雨でセットが流されるなどの困難に見舞われたが、結束力で乗り越えた。KOFIC(韓国映画振興委員会)の支援を受ける初めての外国映画にも選定された。



日本が植民地支配していた朝鮮半島で、現地の陶磁器と民芸を心から愛し、植林も行った浅川巧の映画を上映し、映画化に尽力した元韓国料理店やんちゃ坊店主の李春浩が映画制作時の裏話も含めて講演します。日韓関係が最悪と言われる今、浅川巧から学び、民族の違いを認め合い慈しみ尊重する機会にしたいと思います。

主催：一我ら皆渡来人— 信州渡来人倶楽部 後援：松本市・信州自遊塾 問い合わせ・予約：李 090-1691-4485・豆工房 0263-33-9123